

データ標準化と広域連携による販売システムの実証

現状及び課題、解決策と目指す姿

天童、米沢、銀山の3エリアでは、各々個性ある温泉地・観光地として発展してきた。一方で、単一エリア・事業者単位での観光コンテンツの販売を行ってきたため、地域や事業者を横断したデータ活用や複数の事業者の観光コンテンツをまとめて販売する仕組みがない。その結果、旅行者の周遊や長期滞在の促進が難しいという課題がある。

本事業では、観光コンテンツを複数エリアで同時に予約ができる「広域連携型販売システム」の構築・販売を行う。国際標準のデータフォーマットを活用することで、連携エリア内での主に宿泊施設のデータの統合を容易にする。また、エリア内の現状や旅行者の導線を広域且つリアルタイムで把握・分析することで、効果的なマーケティング施策の立案やCRM等に生かす取組を行う。

複数エリア間の連携により、魅力的かつ効率的な集客の実現をすることで、銀山、天童、米沢の3つのエリアの「エリア全体の稼働と稼ぐ力の最大化」を目指す。

事業概要

旅行者の関心と事業者の予約・稼働状況に合わせて、複数エリアの事業者の観光コンテンツを組み合わせる仕組みを構築し、「地域全体の稼働と稼ぐ力の最大化」を目指す。

目標

広域連携型販売システムを通じて、宿泊、交通、体験等の複数の観光コンテンツの同時予約を成立させることで、地域の観光消費額の向上を図る。

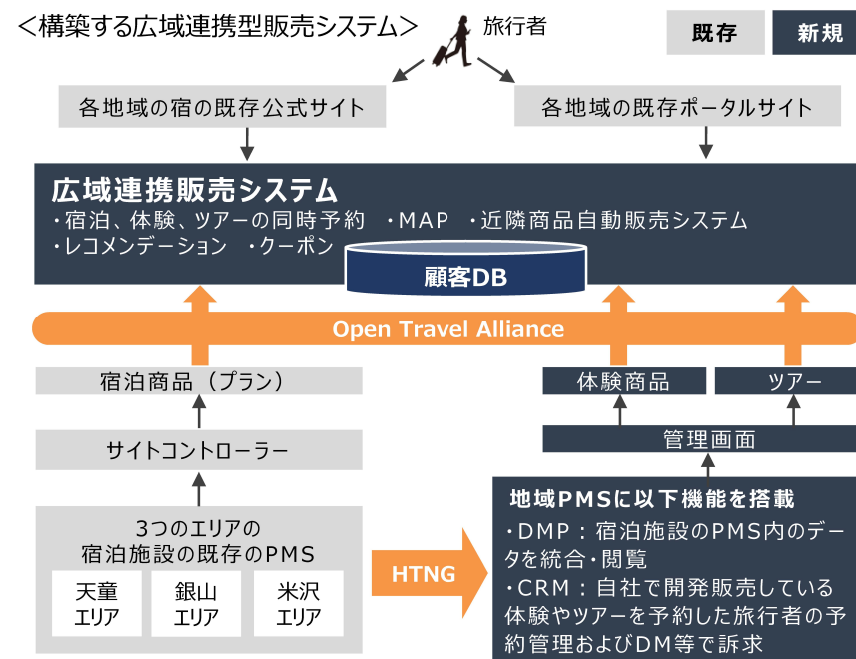
実証内容

国際標準フォーマット「Open Travel Alliance」を活用した、広域連携型販売システムの構築・販売を行う。

目標値

KGI 本システム経由での2観光コンテンツ以上でのCV数 200CV

KPI 本システムの新規訪問者数（セッション数）20,000セッション



取組エリア：山形県 天童/米沢/銀山エリア コンソーシアム名：Yamagata Open Travel Consortium（代表事業者：株式会社DMC天童温泉）